

大経大講座2013・特別企画・新校舎(D館)竣工記念講演会の第一回が、10月4日(金)午後4時20分からD館10教室で開催された。

まず徳永光俊学長が「D館竣工記念講演会として経済・経営系の大学らしい講師による講演を企画した。大経大は今後も学生自線のきめ細かい教育を行うと共に、地域から愛される大学をめざす」とあいさつ。東京大学大学院・経済学研究所教授の伊藤元重氏が、「日本経済の可能性と課題」と題した講演を行った。伊藤氏は2012年から社会保障制度改革国民会議委員、2013年から経済財政諮問会議議員や税制調査委員を務めているほか、「日本経済を創造的に破壊せよ!」ダイヤモンのド社、「経済学で読み解

くこれからの日本と世界 / PHP研究所」など著書も多数。

講演で伊藤氏は、「アベノミクスにより日本は今、過去最大の潮の流れの変化が起きている可能性がある。しかし良い動きは出てきたものの経済には落とし穴が多く予断を許さない」と前置き。そのうえで、「日本国民の持つ金融資産は世界的にも非常に高い水準にあり、企業も莫大な金額を貯蓄している。日本の将来のためには消費や投資が必要で、日銀が大胆な金融政策を実施した結果、株価が大きく上がり為替も安定した。物価も驚くべきペースで上がっており労働市場も改善している」と日本経済の現状を説明。「経済の主役は国民や企業。政府は何をするかではなく民間の消費や投資が増えるこ

新校舎竣工記念講演会

時代の流れを読み、チャンスをつかめ



「これまでのような順調に進んでいるが、次のポイントでは2015〜2020年。消費税をさらに上げるかどうか、年金改革・医療改革を先行するかどうか」と今後の展望を述べ、会場の本学学生に「これから時代が変わっていく。いかに自分のチャンスをつかむか。日々の潮目を見ながら自身の展開を考えてほしい」とメッセージを送った。



講演する伊藤氏

講演で伊藤氏は、「アベノミクスにより日本は今、過去最大の潮の流れの変化が起きている可能性がある。しかし良い動きは出てきたものの経済には落とし穴が多く予断を許さない」と前置き。そのうえで、「日本国民の持つ金融資産は世界的にも非常に高い水準にあり、企業も莫大な金額を貯蓄している。日本の将来のためには消費や投資が必要で、日銀が大胆な金融政策を実施した結果、株価が大きく上がり為替も安定した。物価も驚くべきペースで上がっており労働市場も改善している」と日本経済の現状を説明。「経済の主役は国民や企業。政府は何をするかではなく民間の消費や投資が増えるこ

「強い思い」が未来につながる

新校舎(D館)の竣工を記念した大経大講座2013特別企画として、池上彰氏の講演会「学び続ける力」が、10月24日(木)午後2時30分から70周年記念館フレアホールで行われた。

今回は本学学生限定の講演会で約800名の学生が聴講した。池上氏はまず、長く担当していたNHKの「週刊こどもニュース」を例に、世代によって言葉の受け止め方が違ふこと、物事を誤解なく人に伝えることの難しさに問題提起。「私には無意識に自分本位の発言をしてしまい、人を傷つけている」として、どうすれば大勢の人にわかってもらえるかを考え続けている」と、仕事における自らの基本姿勢を語った。

また現在のようにな仕事

「強い思い」が未来につながる

池上氏は「強い思い」の大切さを強調。さらに、取ってほしい」と強調。感銘を受けたという1人の学生が「商品やサービスより、まず自分を信



学生からの質問を聞く池上氏

池上氏は「強い思い」の大切さを強調。さらに、取ってほしい」と強調。感銘を受けたという1人の学生が「商品やサービスより、まず自分を信

池上氏は「強い思い」の大切さを強調。さらに、取ってほしい」と強調。感銘を受けたという1人の学生が「商品やサービスより、まず自分を信



創立80周年記念キャンパス総合整備事業 4期工事新D館



フレアホール (2階)



ホール

9月17日、創立80周年記念キャンパス総合整備事業の4期工事にあたる新D館新築工事が完了し、竣工式が開催された。秋学期より供用開始となる新D館は、延床面積約1200㎡、8階建ての高層棟と5階建ての低層棟、これらをつなぐ吹き抜けのアトリウムで構成され、高層棟は45mの高さを持つこれまでの本学校舎の中で最も背の高い建物。旧D館に代わる教室棟で、キャンパスの中心に位置するメイン校舎としてこれからの教育を担うことになる。また、カフェ、吹き抜けのラウンジ、

4階のテラス、2階の屋外広場とそこから下る大階段、1階のピロティなど、多くの居場所を持ち、学生がキャンパスで過ごす時間を充実させる場所としても機能する。さらに2階の屋外広場は、道路で隔てられた西校地・東校地への接続ポイントの結節点ともなっており、この点においてもキャンパスの中心校舎と言える。

今後4期工事は、すでに着手している旧D館の解体工事、その跡地における駐輪場整備、その他外構整備を行い、2013年度末に完成する予定だ。



ラウンジ



カフェ

主な記事 contents

- (1) 画 新D館竣工
- (2) 画 教育懇談会他
- (3) 画 大模会たより
- (4,5) 画 ZEM-1クランプリ他
- (6) 画 中小企業・経営研究所 記念講演会他
- (7) 画 客員教授講演会他
- (8) 画 17歳からのメッセージ

卒業式・学位授与式のご案内

2013年度大阪経済大学 卒業式・学位授与式を下記のとおり挙行いたします。

午前の部	対象学部：経済学部、人間科学部、大学院経済学研究科、 大学院人間科学研究科 場 所：70周年記念館 フレアホール 日 時：2014年3月14日(金) 10:00～(入場は9:30～)	午後の部	対象学部：経営学部、経営情報学部、大学院経営学研究科、 大学院経営情報研究科 場 所：70周年記念館 フレアホール 日 時：2014年3月14日(金) 13:00～(入場は12:30～)
-------------	--	-------------	--

大阪経済大学 教学部 学務課
 電話(06) 6328-2431代

- 学生・保護者の方用の駐車場がありません。車での来場はご遠慮ください。
- 収容人数の関係で、保護者の方は式場内へお入りいただけません。あらかじめご了承ください。なお、同館3階の教室において、式典の様子を同時放映いたします。

お問い合わせ

2013年度・春学期卒業式

101名 新たなフィールドへ

2013年度・春学期卒業式が9月18日(水)午前10時から、C館31教室で行われた。卒業生の門出を祝いグリーククラブが「遙かな友に」作詞・作曲/磯部(倅)を合唱し、来賓の同窓会会長をはじめ、学長・理事長・学部長・研究科長が登壇。

まず、経済学部・経済学科35名、経済学部・地域政策学科4名、経営学部第一部・経営学科15名、経営学部第一部・ビジネス法学科9名、経営学部第二



徳永学長

徳永光俊学長から卒業証書・学位記を受け取った。

式辞では徳永学長が、新学舎D館の竣工を紹介後「芸術だけでなく学問もオリジナリティが重要。学生生活で得たものを、社会で大切に育てていってほしい」と卒業生を激励。続いて勝



勝田理事長

得たものを胸に羽ばたけ

田泰久理事長が「心身共に健康であってほしい」「志を大きく、世のため人のため働いてほしい」などの縁のなごりを大切にしたい」と、はなむけの言葉を贈った。

最後に卒業生を代表して、上村さんが答辞を読み上げ、「スケ

その後、卒業生たちは学部・研究科別に教室に集まり、各学部長・研究科長から一人ひとりに卒業証書が手渡された。経営学部の会場では池島真策学部長が、「工学で培った力を信じて社会で活躍してほしい。悩んだり不安になった時は大学に顔を出し、ゼミなどの先生を訪ねて遠慮無く相談してほしい」と語りかけ、巣立つ卒業生たちを温かく見送った。



第26回教育懇談会

保護者とのつながりを深め より多くのサポートを

2013年度・第26回教育懇談会が6月22日(土)、大隅キャンパスで実施された。まず「全体懇談」がD館1階16教室で午前10時から行われ、オープニングセレモニーとして本学のマンドリンクラブによる演奏が行われた。

続いて勝田泰久理事長があいさつ。経済・経営系の中規模大学として、歴史と特色を生かして進んでいきたい。ゼミナールを中心とした丁寧な少人数教育で教育の質を維持し、「行きたい・行かせたい大学」にしていきたい。優良企業からの採用希望は多く、きちんと授業を受けクラブ活動



徳永学長

などで活躍した学生は採用されている。不安があれば進路支援センターに相談してほしい」と会場の保護者に語りかけた。

続いて徳永光俊学長が本学の教育について説明。「大経大の教育は『そつと手を添え、じつと待つ』に尽きる。多様な学生一人ひとりに目配り気配りして、きちんとケアしていきたい。学生と保護者、OBが大経大ファミリーとして一緒に進んでいきたい」と訴えた。

午後1時から「学生体験談」がC館31教室で行われた。司会進行は本学CBS文化放送局の

●資格講座ガイダンス
就職シンポジウム

続いて午後2時から同会場で行われた「資格講座ガイダンス」が行われ、ライセンスプランナー(大原学園)が、資格取得の必要性や、取得のためのスケジュールなどを説明。「企業にアピールできるのは一生懸命に取り組んだ熱意。やりたい仕事につながる難易度の高い資格を取得することが大事」と説明。また午後3時から同会場で行われた「就職シンポジウム」が行われ、第一部では本学のキャリア担当教員である田村俊之准教授(経営学部)によ

●学生体験談

演劇研究部の大原弘也さん(人間科学部4年)は、「クラブ活動で自主性や責任感が身に付いた。新しい自分を発見でき、物事や人への対応力も培われた。」

の5名が参加。内定を得ている4年生とOBは、就職活動における体験談や内定に至る経緯などを、3年生は現在の就活の状況などを会場の保護者に披露。「業界を絞らすぎると知識が偏る」「早くから活動している学生との個人懇談「学生に聞いてみよう」をB館3階1階で行われた。また本学茶道部による点出しと邦楽演奏がC館1階で行われた。



田村准教授の講演の様子

2013年度・教育懇談会は、大隅キャンパスの後、高松会場では6月29日(土)、岡山会場では6月30日(日)、京都会場では7月6日(土)、和歌山会場・松山会場では7月7日(日)に実施され、大勢の保護者で賑わった。



大原弘也さん



芝里菜さん

まず弓道部・副将の芝里菜さん(経営学部3年)が、「勉学と部活、一人暮らしとアルバイトを全てこなすのは難しかったが、結果として計画性が身に付き自分に自信が持てるようになった。」



岡野凜子さん

最後に藤原忠毅ゼミの武田圭倫さん(経営学部4年)が、本学独自のゼミ活動を紹介。「ゼミでは自主性が重視され、伝える力・聞く力など社会で必要とされる能力が身に付く」とアピールした。



江藤小雪さん

簿記2級合格の岡野凜子さん(人間科学部4年)は、「就活で役立つ資格に挑戦したかった。簿記の知識は全くなかったが、資格講座で基礎から無理なくしっかりと学べた。」



武田圭倫さん

金融業界に内定した藤原英里子さん(経営学部4年)は、「信用金庫でのインターンシップに参加した。働いている人たちの意識の高さを感じて、就活に対する認識が大きく変わった。」



藤原英里子さん

斎藤大也さん(経営学部2年)と三好智也さん(経営学部2年)。

また来国のメンフィス大学に10カ月間留学した江藤小雪さん(経営学部3年)は、「いろいろな国の友だちができ、現地の大学生の勉強に対する意識の高さに驚いた。努力次第で様々な扉が開くとわかった。」

誇らしい歴史を

90周年、100周年へ

学生の祭典大樟祭が開催されている中、平成25年11月3日(日)午前11時より大樟会総会が開催された。今総会は、今年9月に完成したばかりのD館を会場とし、北は北海道、南は鹿児島から約209名の同窓生が参加。オープニングセレモニーに続いて感謝状の贈呈、記念講演会が行われた。午後はD館8階の80周年記念ホールで交流レセプションが行われ、1年ぶりに会った旧友との歓談が盛り上がるなど、和やかなひと時となった。

総会は、午前11時に小林真人常務理事の司会で始まり、グリーククラブの学歌斉唱に続いて、大樟会を代表して佐藤武司会長があいさつに立った。

平成25年度大樟会総会が盛大に開催

ホームカミングデーと同時開催

佐藤会長は、80周年を記念して寄贈したモニュメントに込めた思いを紹介し、「80年の歴史と伝統は、同窓会としても誇らしい歴史」と称賛。図書館前に掲げられた寄付者の氏名について、「卒業生や企業名を見ることで、大樟大に行きたいと思っ

大阪経済大学

創立80周年記念事業募金 寄付者銘板が完成

図書館前に掲出されました

創立80周年記念事業募金として同窓生・支部・各種団体をはじめ各界から10万円以上ご寄付いただいた方のお名前を記した「銘板」が平成25年10月に完成、図書館前に掲出されました。



大樟会だより

大勢の熱気の中、旧友との絆を深め合おう

記念講演、ホットなテーマを熱心に傾聴

このあと、永年にわたる泉南支部長として支部活動や同窓会の発展に尽力され、このたび退任された車野修三氏に、佐藤会長から感謝状が贈られた。

恒例の記念講演会は、「非関税障壁としての消費税」米公文書に見る消費税論議」をテーマに、経済評論家の岩本沙弓氏(本学客員教授)が、日本の消費税について、アメリカなど海外からは非関税障壁と見られている状況とその背景について解説。消費税率が引き上げられるホットな話題とあって、参加者は熱心に耳を傾けていた。午後は会場をD館最上階の80周年記念ホールに



平成25年7月7日富山支部総会が開催され、支部長に就任致しました安田秀雄(31回卒)です。初代重松尚支部長が50年間にわたり残された功績ははかり知れないものがございます。また長年初代支部長を支えてこられた小泉前支部長のご尽力にも敬意を表したいと(土)国立競技場で70歳以上のロイヤル思います。私事 サッカー部山本勲大先輩の勧めで大学ではサッカー部に入部しましたが、家庭の事情で辞め卒業後工員卸業に就職、6年後故郷に帰りの鉄工所を手伝いながらも、サッカーへの思いが断ち切れず今日までサッカーに携わってきました。定年後、カークに携わってきました。安田秀雄(31回卒)です。初代重松尚支部長が50年間にわたり残された功績ははかり知れないものがございます。また長年初代支部長を支えてこられた小泉前支部長のご尽力にも敬意を表したいと(土)国立競技場で70歳以上のロイヤル思います。私事 サッカー部山本勲大先輩の勧めで大学ではサッカー部に入部しましたが、家庭の事情で辞め卒業後工員卸業に就職、6年後故郷に帰りの鉄工所を手伝いながらも、サッカーへの思いが断ち切れず今日までサッカーに携わってきました。定年後、カークに携わってきました。

新支部長に就任しました

再興三重支部

引き受けたからには全力であたります

三重支部長 池山 英典(平成3年・57回卒)



10月20日(日)平成25年度、大阪経済大学大樟会三重支部総会におきまして支部長に選出されました57回卒の池山です。三重支部は平成16年度の総会から休眠状態となっており、今年9年間の、当初は総会案内状が来ないこと、「どうしたのだ」と思っていたのですが、何年も年月が経過するうちに休眠状態になっていくことが分かり、支部活動を再開するために、どうすれば良いのか考えてきた結果、当たり前ですが、「自分が自ら進んで再興するしかないのかな」と思うようになりました。母校に向き大樟会本部に相談すると、本部でも三重支部は休眠状態で支部活動再開について、三重支部会員に電話をして私の支部長就任には、どう考え



三重支部総会の様子

平成24・25年度 秋の叙勲受章

おめでと〜うございませす (敬称略)

瑞宝双光章
奥村 儀弘(24回卒)
78歳
元神戸市生田消防署長
(兵庫県神戸市)

旭日単光章
高田 亮平(26回卒)
76歳
紀の川市商工会長
(和歌山県紀の川市)

瑞宝単光章
阿部 好宣(30回卒)
72歳
徳島県保育事業連合会
会長
(徳島県名東郡)

旭日双光章
西村 一郎(30回卒)
72歳
大阪文紙事務器卸協同組合
副理事長
(兵庫県西宮市)

瑞宝単光章
細谷 昌(30回卒)
72歳
警察関係危険業務従事
(兵庫県神戸市)

旭日小綬章
久保 太郎(31回卒)
72歳
全国労働保険事務組合
連合会副会長
(兵庫県尼崎市)

※叙勲を受章された方は大樟会事務局へお知らせください。

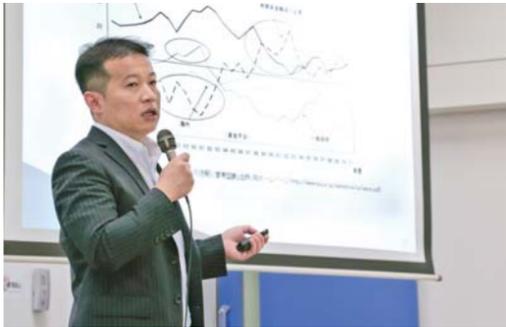
第3回「経営と法セミナー2013」

不動産やヘルスケア施設の証券化を考える



「経営と法セミナー2013」の第3回が7月27日(土)、午後2時から3時30分まで、C館31教室で行われた。このセミナーは、ビジネスにおける法はどのような役割を果たしているのか、ビジネスにおける法の力を考えるという講座。ビジネス社会の法化が進化するなか、2004年に開設された経営学部ビジネス法学科の「経営と法の融合教育」の意義をアピールする企画でもある。

第1回のテーマは「グローバルビジネスと法」で、講師は本学客員教授の澤井啓氏。第2回のテーマは「携帯・スマートフォンに学ぶ」で、講師は本学非常勤講師で古谷国際特許事務所所長の古谷英氏。そして第3回は、「新しい不動産ビジネスと法」ヘルスケア施設の証券化の事例」と題して、本学経営学部ビジネス法学科の橋谷聡一専任講師が講義を担当。コメンテーターを本学経営学部ビジネス法学科の木村



橋谷聡一専任講師

俊郎教授が務めた。橋谷講師は不動産会社に勤務した経験を持ち、不動産法や不動産証券化が専門分野。この日は、不動産証券化とは何か、ヘルスケア施設の証券化とは何かを主なテーマとして90分の講義を行った。

不動産証券化とは、オフィスビルやマンションなどの資産を裏付けに小口の証券を発行し、発行者は証券売却による資金を獲得し、投資家は賃料収入や売却益をもとに配当を受け取るという仕組み。橋谷講師は、不動産を証券化するためのシステムや、不動産投資が生まれた歴史的背景、不動産投資のリスクや法制度、不動産投資がビジネスにもたらした影響などについて解説。さらに日本における不動産投資の現状などを示した上で、本題であるヘルスケア施設の証券化に言及。超高齢社会や社会保障費増大といった社会変化によるヘルスケアファンドの具体的事例や今後、利用者、オペレータ、資産運用会社や投資家などにとっての課題などを紹介した。

講義後は聴講者との質疑応答が行われ、最後にコメンテーターの木村教授が、さまざまな経営システムに対する法整備の必要性を強調してセミナーを締めくくった。

春季 大学院サテライトコース 入学試験(北浜社会人入試)

北浜社会人大学院では本学専任教員による学術教育と実務家講師による実践理論の融合により、様々なキャリアの人材がビジネスリーダーとしての能力を養成しています。

募集研究科：経営学研究科 経営学専攻(修士課程)
経営情報研究科 経営情報専攻(修士課程)

出願期間：2014年1月15日(水)～1月22日(水)

試験日：2014年2月16日(日)

選考方法：口頭試問、小論文(専攻・ゼミによる)

学びのポイント：

- ①仕事のリズムを崩さず、平日夜間と土曜日に開講
- ②実務家を教員に招き、実践的理論を修得
- ③学ぶ意欲にチャンス。奨学金制度も充実

詳しくはwebで！ <http://kitahama-osaka-ue.jp>

北浜キャンパス事務室(06-6231-1570)

中小企業・経営研究所開所50周年記念講演会

専門家がみつめる

中小企業の現在と未来

「中小企業・経営研究所開所50周年記念講演会」が10月19日(土)午後1時～5時まで、C館31教室で行われた。記念講演会の総合タイトルは「日本中小企業50年の回顧と展望―理論・政策・経営の視点から」。流通科学大学名誉教授(日本中小企業学会会長)の高田亮爾氏、中小企業庁・事業環境部調査室長の早田豪氏、本学客員教授(中小企業診断協会会長)の福田尚好氏、大垣精工株式会社・代表取締役社長(日本金前工業会多管会長の上田勝弘氏の4名を講師に迎えた。



高田亮爾氏

まず高田氏が「経済発展と中小企業―中小企業の重要性と日本の中小企業研究」のテーマで講演。中小企業の定義に始まり、中小企業に対する関心が高まり国際的研究が活発化している理由、日本経済に中小企業が果たしてきた役割、中小企業の特徴と課題などを解説し、日本における中小企業研究の歴史や潮流について概要を説明した。

続く早田氏は「2013年版中小企業白書」について「2013年版中小企業白書」の第1部の「最近の中小企業の動向」では、景況感、収益・生産、資金繰り、倒産件数、販売単価・原材料価格の動向などのデータを基に説明。第2部の「自己変革を遂げて躍進する中小企業・小規模事業者」では、起業や創業の意味や課題、新事業展開、次世代への事業承継、事業売却、IT技術の活用などに関する



早田豪氏

データを、現状と課題、政府の施策などを解説した。福田氏は「中小企業活性化支援における現場での実際」のテーマで講演。日本の中小企業の現状を踏まえたうえで、中小企業診断士の業務について「企業の成長戦略策定や、実行のためのアドバイスが最も重要な活躍の場」と説明。診断支援業務の現



福田尚好氏

場における実際(課題抽出・解決策検討・実行に際しての着眼点と現場のあるべき活動)に触れた後、複雑化・多様化する中小企業経営に対応するにはネットワーク型支援が必要と訴えた。

最後の上田氏は、「国際競争を勝ち抜くものづくり 新たな視点―素材基盤産業の経営戦略―」のテーマで講演。大垣精工株式会社の概略を紹介するビデオを上映後、自身が起業に至った経緯、金型産業の現状、日本の技術や雇用を守る必要性、さらには乱気流の時代を生き抜く方策や、各自の強みをアピールすることで下請け構造から脱する努力の重要性をアピールした。



上田勝弘氏

中小企業・経営研究所

理事長・学長を歴任した藤田敬三博士が、かかる研究の重要性を考え、他に先んじて1963年4月、中小企業研究所を創設、さらに1989年には、産業経済研究所、経営研究所を統合した「中小企業・経営研究所」に改編され、研究所活動を継続しています。当研究所を利用している研究活動は学内のみに止まらず、広く研究センターとして開放され、国内外の多くの研究者によって利用されています。またこれらの研究を支えるための重要な文献はすでに約13万冊(年報等は含まず)に達し、質・量ともにわが国最大のコレクションとして高く評価されるとともに、より一層の活動強化が期待されています。研究所事務室では、有価証券報告書のデータベース(eol)を利用することができ、企業情報収集に役立っています。なお、研究成果は主として『経営経済』(年刊)に発表されるほか、『中小企業季報』では、中小企業研究の第一線で活躍中の研究者による研究論

文をはじめ、文献の解説・書評、中小企業に関する文献目録を掲載し、研究者・学者に広く活用されています。また、11月29日(金)、大阪府商工労働部大阪産業経済リサーチセンターと大阪経済大学中小企業・経営研究所は、包括連携(大阪経済成長連携プロジェクト)に関する協定を締結しました。今後これらの連携をより一層深めつつ、共同研究、政策に関する意見交換、資料・情報交換等を継続的に推進することにより、大阪産業の振興及び地域経済の発展に貢献したいと考えています。



開所当時の研究所

教育振興募金にご協力を



平素より大阪経済大学のためにご支援を賜りまして、厚く御礼申し上げます。

現在、少子化の進展、志願者の獲得をめぐる大学間競争の激化、経済状況と家計の悪化、就業環境の変化と格差など、大学と学生を取り巻く環境は厳しさを増しております。このような中で本学が社会的責務を果たし、持続的に発展するためには、教育の環境と内容を継続的に充実・改善することが必要であると認識し、これらを通して学生一人ひとりの個性を伸ばし、幅広い視野と見識を持った社会で活躍できる人材を育成してまいります。そのために、①海外留学支援などのグローバル人材の育成、②奨学金制度の充実、③施設の整備・充実に取り組んでまいります。

これらの事業を達成するために、経費の節減、業務の合理化、外部資金の獲得、事業収入の増加など、全学一丸となって自助努力を続けておりますが、厳しい財政状況の下では、なお多額の資金を必要としており、皆様からの温かいご支援がぜひとも必要でございます。

今日の厳しい経済状況は十分に承知しておりますが、なにとぞ募金の趣旨をご賢察くださり、格別のご理解と力強いご支援を賜りますようお願い申し上げます。皆様方の温かい心をお寄せいただきますよう謹んでお願い申し上げます。

詳細につきましては、本学ホームページをご覧ください

<http://www.osaka-ue.ac.jp/information/contribution/>



質疑応答の様子

最後に、安全保障問題を考えるには「バランスと細心」が重要であること、一面的な判断や浅慮は危険であることを述べて、話を締めくくった。平和と安全についての議論に正面から切り込む貴重な講演に、参加者からは割れんばかりの拍手が贈られ、講演会は大盛況のうちに終了した。



大経大講座2013 客員教授秋季講演会

安全保障は

バランスと細心

の視点をもって

昨今の国際情勢を 具体的に解説

現代社会を取り巻く諸問題をとり上げ、本学客員教授が豊かな経験をもとに独自の視点から語る「大経大講座2013客員教授講演会」。その一環として11月30日(土)、在スイス・在イタリア日本国大使の経験をもつ中村雄二氏(本学情報社会学部客員教授)が「日本の

安全保障」をテーマに講演を行った。300名収容のホールは、開演前にはほぼ満員。特に男性社会人の姿が多く見受けられ、日本をめぐり東アジアの防衛問題への関心の高さがうかがわれた。

中村氏は冒頭で「新たな厳しさを増す安全保障の環境」について、昨今の情勢を中国や北朝鮮、日米関係などを例に挙げ、具体的に説明。続いて、冷戦終結以

降の国際関係の枠組みの変化について解説し、今後の安全保障を考えるに際して押さえるべき視点について、五つのキーワードを中心に自説を展開した。

第一のキーワードは「自衛」。中村氏はここで、国際社会の中で自力救済、自衛の必要性についての視点を語った。続いて第二のキーワード「抑止」では、相手の攻撃を未然に防ぐ意思や体制を示すことの重要性を説き、第三のキーワード「同盟」では、同盟関係構築や維持の努力に触れた。一方、第四のキーワードとして「安全保障のジレンマ」を取り上げ、自衛目的の



中村雄二氏

ホームカミングデー 開催

11月3日(日・祝)、第3回ホームカミングデーが大樟会(同窓会)総会・大学祭と同日に開催されました。今年、現役教員と卒業生のつながり、卒業生同士のつながりの強化を目指して、19のゼミ、学部、同期会、クラブOB等でミニ同窓会を行いました。来場者に大学祭模擬店チケットとを配布して在学生との交流を深めるなど約500名の卒業生の皆さんが恩師や旧友、在学生との交流を深め、たのしいひと時を過ごしました。



草薙信照ゼミ同窓会



二宮正司ゼミ同窓会



大学院同窓会



森詩恵ゼミ同窓会



高松亨ゼミ同窓会



山本恒人ゼミ同窓会



山本俊一郎ゼミ同窓会



徳永光俊ゼミ同窓会



橋谷聡一ゼミ同窓会

第13回高校生フォーラム 17歳からのメッセージ表彰式

思いを“言の葉”に託して

あいさつする徳永学長



今年も北海道から沖縄までの382校が参加し、応募総数は26936点。作品の内訳は、テーマ①「今までの自分、これからの自分」が13909点、テーマ②「社会のために、未来のためにできること」が9501点、テーマ③「今、これだけは言いたい! (自由課題)」が10476点。本学で9月3日(火)に選考が行われ、グランプリ3作品、金賞10作品、学生審査員賞1作品(点)、銀賞



賞状を持って笑顔をはるグランプリの3人

第13回高校生フォーラム「17歳からのメッセージ」表彰式が11月23日(土)、午後1時から新館1階で行われた。



藤原里花子さん

38作品、奨励賞92作品、学校特別賞31校が決定した。表彰式では2012年度本学卒業生の筒美由紀さんが司会を務め、まず徳永光俊学長が「13回目を迎えた今までの応募総数は35万4124点に達した。『17歳からのメッセージ』

「優秀な作品が多く審査では議論が白熱した。普段の携帯メールと異なり、友人ではない人たちにも自分の考えを理解してもらえよう苦労したと思う。言葉は魔法。これから



森田千尋さん

は、日本語の手書きの文化を高校生に見直してもらうための大事な文化事業だと考えている」とあいさつ。続いて審査員を代表し読売新聞大阪本社・編集委員の西井淳氏が「



喜屋武七美さん

も文章を綴り続けてほしい」と受賞を祝った。そして表彰式に出席したグランプリ・金賞・銀賞の受賞者に、徳永学長が賞状と目録を授与。学生審査員賞の受賞者には学生審査員を務めた3名の本学学生から賞状と目録が手渡された。



勝田理事長

祝いたい。受賞した皆さんは、このコンテストを高校の後輩に引き継いでほしい。私たちは全国の高校生と、これからもつながってほしい」とあいさつし、全員で乾杯した。そして立派な形式で受賞者同士、あるいは受賞者と本学教員などの会話が弾むなか、グランプリ受賞者や学生審査員に対するインタビューも行われ、会場は大いに盛り上がった。



パーティーの様子

パーティーの最後は、「17歳からのメッセージ」運営委員長の近藤直美教授が「受賞した高校生の皆さんと話せることは非常に幸せ。文章を書くことは自分を客観視するチャンス。将来に何度も読み返して、その時々の自分の成長の証としてほしい」と講評し、パーティーは閉会となった。

グランプリ受賞者のコメント

●「方言」

藤原里花子さん
(兵庫県立芦屋高等学校)

自分が書いたものが評価されて嬉しいです。新聞で受賞が発表されて一般の人からもお祝いの言葉が届き、自分に自信が持てるようになりました。将来は、方言を大事にする保育士になりたいです。

●「女性と職業について」

森田千尋さん
(和歌山県立和歌山商業高等学校)

今の社会は、まだまだ男性社会だという意識があり、このテーマに決めました。母が、働き始めてからイキイキしているのが嬉しいです。受賞を伝えると、恥ずかしがりながらも喜んでくれました。

●「私と祖母達と方言」

喜屋武七美さん
(沖縄県立北山高等学校)

祖母と暮らすようになって感じたことを書きました。スポーツで怪我をしたことがきっかけで、将来は理学療法士になりたいと思っています。「ナンクルナイ(なんとかなるぞ)精神」で頑張ります。

学生審査員賞&金賞受賞者のコメント

「よしゆきの命に感謝」

片田有衣子さん(高知県立高知農業高等学校)

600字という文字数にまとめるのが難しかったです。もともと動物が好きなのですが「よしゆき」のおかげで、家畜に対する意識が変わりました。将来は農業系の仕事に就きたいと思っています。

「よしゆきの命に感謝」を選んだ学生審査員のコメント

田丸瑛祐さん

重いテーマですが表現が理解しやすく、動物の命について新しい視点で学ぶことができました。

米田祥子さん

高校生が素晴らしい作品を書いていることに驚き、どの作品を選べばよいか3人で悩みました。

徳武桃子さん

衝撃的な作品でした。高校生が動物の命と真剣に向き合っていることに驚きました。



受賞者と学生審査員

学校特別賞 31校

【大賞】

- 熊本学園大学付属高等学校(熊本県)
- 高岡第一高等学校(富山県)
- 日本航空高等学校石川(石川県)
- 北陸学院高等学校(石川県)
- 山梨県立都留高等学校(山梨県)
- 長野県松本蟻ヶ崎高等学校(長野県)
- 静岡県立二俣高等学校(静岡県)
- 愛知県立名南工業高等学校(愛知県)
- 桜花学園高等学校(愛知県)

- セントヨゼフ女子学園高等学校(三重県)
- 京都府立京都すばる高等学校(京都府)
- 大阪府立市岡高等学校(大阪府)
- 大阪府立富田林高等学校(大阪府)
- 大阪府立八尾翠翔高等学校(大阪府)
- 大阪市立工芸高等学校(大阪府)
- 大阪市立都島工業高等学校(大阪府)
- 大阪商業大学高等学校(大阪府)
- 履正社高等学校(大阪府)
- 和歌山県立那賀高等学校(和歌山県)
- 和歌山県立日高高等学校(和歌山県)

- 和歌山県立和歌山商業高等学校(和歌山県)
- 岡山県立岡山南高等学校(岡山県)
- 広島県立広島工業高等学校(広島県)
- 福岡県立香椎工業高等学校(福岡県)
- 長崎県立諫早農業高等学校(長崎県)
- 長崎県立五島海陽高等学校(長崎県)
- 長崎県立佐世保商業高等学校(長崎県)
- 大分高等学校(大分県)
- 宮崎県立宮崎南高等学校(宮崎県)
- 聖心ウラスラ学園高等学校(宮崎県)
- 鹿児島県立指宿高等学校(鹿児島県)

2014年度 一般入試

前期

●A方式(2教科)入試

- 出願期間 2014年1月6日(月)～1月20日(月) 締切日消印有効
- 試験日 2014年1月28日(火)・29日(水)・30日(木) 試験日自由選択制
- 合格者発表 2014年2月14日(金)

●B方式入試(3教科型・ベスト2教科型)

- 出願期間 2014年1月6日(月)～1月24日(金) 締切日消印有効
- 試験日 2014年2月5日(水)・6日(木) 試験日自由選択制
- 合格者発表 2014年2月14日(金) ※3教科型で受験した中の高偏差値の2教科で合否判定を行います。 ※ベスト2教科型のみ出願はできません。

●C方式入試(大学入試センター試験利用) (4教科型・3教科型・ベスト2教科型)

- 出願期間 2014年1月6日(月)～1月30日(木) 締切日消印有効
- センター試験日 2014年1月18日(土)・19日(日) ※C方式はセンター試験の結果をもとに選考します。本学の個別学力検査はありません。
- 合格者発表 2014年2月14日(金)

後期

●D方式(2教科)入試

- 出願期間 2014年2月17日(月)～2月25日(火) 締切日消印有効
- 試験日 2014年3月4日(火) ※異なる2学科の併願が可能。
- 合格者発表 2014年3月11日(火)

※詳細は本学WEB、入試要項にてご確認ください。

大学のホームページ(<http://www.osaka-ue.ac.jp/>)でも様々な情報を掲載しています。